様式３号

第２回大東中学校運営支援協議会会議録

一関市立大東中学校

１　会 議 名　令和８年度第２回大東中学校運営支援協議会

２　開催日時　令和８年１０月２０日（火）14 時 30 分～16 時 00 分

３　開催場所　大東中学校校長室

４　出 席 者

（１）委員　藤原良治（会長）、佐藤早苗、小島公義、及川隆志、柏原厚子、佐藤恵子、板谷大樹、
松田恵美子、鳥畑伸人

（２）事務局

菅原　正浩（校長）、石川純（副校長）

５　協議

（１）学校の状況、生徒の様子について

資料に基づき説明を行い、質問・意見をいただいた。

・生徒在籍数について。来年度から全ての学年が２クラスとなる。
・学校支援地域共同本部事業で地域ボランティアの協力をお願いしている。地域コーディネーターを通じてボランティアを募り、家庭科の授業など複数回にわたり支援していただいた。
・総合的な学習の時間「大東学」で各学年、地域に出ての体験活動や調査活動を行い、地域とのつながりや人とのふれあいを通じて学びを深めた。
・生徒会役員選挙を終えてリーダーが３年生から１，２年生へと引き継がれる。
・中総体や新人大会では多くの上位入賞が見られた。吹奏楽やわたしの主張、英語弁論など文武両面、多岐にわたり活躍する姿が見られた。
・スマートフォンは７割の生徒が所有している。今年度からサイバーセキュリティーチャレンジの指定を受け、警察関係者から情報モラルに関する講話を継続的にいただく。
・日常の生徒同士のトラブルを見逃さず、早期発見・早期対応を心がけ、積極的にいじめを認知して対応している。
・水かけ祭りには今年度から登校日にして参加する。立志に携わる２学年は全員、祭りの準備段階から参加する体制をとる。

（２）地域での生徒の様子

・社会体験学習で生徒を受け入れたが、４日間、しっかりと活動を行っていた。学校へ行こう週間で感じたことは挨拶をする生徒としない生徒がはっきりしている。授業では、机に伏せている生徒が気になった。

→社会体験学習では各事業所から好意的な感想をいただいた一方、迷惑をかけてしまったケースもあり指導していただいた。

→生徒を育てていく上でしつけをする場面も必要だと感じる。近年、先生方もモラル面で、生徒に厳しく

接しにくい情勢ではあるが、状況に応じてしっかりとしつけをしてもらいたい。

・落ち着きがない生徒に苦慮しているとのことだが、対応として、学校へ行こう週間以外に何か考えているか。

→実際に見ていただくことで現状が一番伝わると思うので、地域に声をかけてみんなで見に来てほしい。1回目は来校者が少なかったと思う。第2回目は、時間帯等を絞るなど検討していきたい。

→見に行く側も、一人だと参観しにくいかもしれない。複数で行くのと一人では気持ち的に違うので、複数で誘い合っていくことも有効。

→期間や時間帯を絞って開催した方が良いと思う。3日間いつでもいいですよというより、この日の午前とか午後とか絞った方が来やすいと思う。

→生徒にダメなことはダメと教えてあげなければ、わがままなで勝手な生徒が増えると思う。世の中の流れで、強く怒れないし厳しくできず大変だと思うが、おかしいことはおかしいと伝えなければならない。

・親との信頼関係を築くことは大事。

・何かあったときに保護者に伝えていくことも大事。修学旅行説明会後など、改めて保護者達に現在の様子を伝える場も必要ではないか。保護者は、何が起きているかそれぞれで情報を得てはいるが、実際のところはどうなのかとか、他の人がどう思っているかとかを知りたいと思う。

→保護者との意見交流の場を設けたいと思う。

6　その他

7　閉会